

令和6年度研究について

研究推進委員会

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
～共に学び合う授業づくりを通して～

2 研究主題について

新学習指導要領では、児童に必要な素質・能力を育むための学びの質に着目し、授業改善の取り組みを活性化していくための視点として「主体的・対話的で深い学び」が示された。県で取り組む「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを重視し、それを活用した授業改善を進めていくことが必要である。

本校では、「力を合わせ、大きく伸びる子」の育成を目指し、日々の教育活動を通してその具現化に努めている。また、調和の取れた豊かでたくましい人間性を培うとともに新しい時代の変化に主体的に対応できる児童の育成をめざしている。昨年度は、「主体的な学びを促す導入の工夫」について研究をした。その成果として、児童が自ら疑問をもち、主体的に学ぶことができるようになってきた。しかし、公式を覚えていても問題や場面によっては使い方が分からなかったり、記述に苦手意識をもっていたりと、思考力・判断力・表現力に課題がみられる。そのため、「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用することは、児童が自分の疑問をもったり、それまでの学習内容や方法を振り返ったりするツールとなり、大きな力を獲得することができるであろうと考え、本主題を設定した。

3 仮説

明確な目的意識のある対話的な活動を行えば、学びを広げ深めることができるだろう。

4 仮説について

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムには、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の4つの学習過程がある。その教科や単元で児童に身に付けさせたい力は何かを考え、その達成のために必要となる学びは何か、どの学習過程が効果的なのか、といったことを考えることが大切である。

「他者」「自分」との対話を通して自分の考えとの違いを比較しながら思考を再構築させていき、納得解・最適解を得ながら考えを広げ深めていくことで、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

対話的な活動をする際には、「何のための対話なのか」を児童が理解していることが重要であり、目的もなく対話的な活動に入ることがないように注意したい。

5 見取り方

対話的な活動	学びを深め広げる
思考をアウトプットする機会が何回あったか。 他者の考えから得られたものがいくつあったか。	多面的・多角的に考えられたか。 解き方をいくつ考えたか。 自分の解き方について見直すことができたか。 適応問題で新たな知識を活用できたか。

